

# 五臓圓ビル 文化財に 歴史的景観に寄与

文化審  
申  
答

国の文化審議会（西原鈴子会長）は11日、鳥取市二階町の五臓圓ビルについて、国登録有形文化財の登録を文



国登録有形文化財の登録が答申された五臓圓ビル＝鳥取市二階町

部科学大臣に答申した。正式に登録されれば、鳥取県内で142件目。鳥取市では19例目となる。五臓圓ビルは市内に現存する最古の鉄筋コンクリート造りの建物で、地元商店街などは地域活性化につなげようと、保存活用に組み組んでいる。（3面に関連記事）

ビルは1931（昭和6）年に建てられ、智頭街道と通称・二階町通りの交差点に位置し、市内で4番目に建設された鉄筋コンクリート造りの建物だった。

3階建てで地下には倉庫、1、2階は店舗や住居用。3階部分は従業員宿舎として設計されたものの、竣工後、約半年で増築し、喫茶店・レストランとして営業した。建物の北角を4分の1にわたって円弧とし、外壁の仕上げには当時流行したスクラッチタイルを施している。43（同18）年の鳥取震災では影響を受けなかったが、52（同

27）年の鳥取大火では内部を全焼した。焼け落ちた町に残るビルの姿は市民の記憶に深く残っていることから、国土の歴史的景観に寄与しているとして評価された。地元関係者は、昭和の街角を再現したり、ビルのライトアップなどして活用策を模索している。